

## I 学校の概要・目標及び計画

### (1) 建学の精神

「美しい心と技術の調和」

### (2) 教育目標

1. 教養高く、知識、技能に優れ、次の世代を担う社会人の養成
2. 科学的知識に加えて、自らの創意工夫により技術や感覚を養う能力の育成
3. お互いに尊重しながら、同じ目標に向かって努力する力の育成

### (3) 校訓

3Hの法則（バランスの取れた3つのHを備えた人材の育成）

Heart：「ホスピタリティマインド、コミュニケーション能力、チームワーク」まごころ

Hand：「安全、正確、スピーディ」所作

Head：「教養、専門知識、ビジネス感覚」知識

### (4) 理事長及び校長名、所在地、連絡先等

学校法人群馬県美容学園 理事長 松本 一郎

アーツ サウンド ビジュアル専門学校 学校長 住谷 知彦

〒371-0006 群馬県前橋市石関町 136-1

TEL:027-225-5011 FAX:027-225-5012

E-Mail:asvcoll@gunbi.ac.jp

URL: <http://www.asvcoll-ac.jp/>

### (5) 学園、学校の沿革

昭和29年 財団法人 群馬県高等美容美容学校設立認可

昭和33年 財団法人 群馬県高等美容学校設立認可

各種学校群馬県知事認可

財団法人 群馬県高等美容学校厚生大臣指定認可

【定員 昼間100名 通信200名】

昭和42年 財団法人 群馬県高等美容学校厚生大臣定員指定

【定員 昼間200名 通信400名】

昭和56年 財団法人 群馬県美容高等専修学校設置 群馬県知事認可

【定員 美容高等課程200名 別科400名】

平成 9年 学校法人群馬県美容学園設立

- 平成10年 群馬県美容専門学校 群馬県知事認可  
【定員 美容専門課程 400名 別科 240名】  
厚生大臣指定養成課程及び定員指定  
【定員 昼間課程 400名 通信課程 240名】
- 平成11年 現在地に新校舎移転
- 平成20年 群馬県美容専門学校 新学科設置  
トータルビューティー科 【定員 女子 120名】  
新学科設置に伴い校舎およびホール増設
- 平成22年 群馬ブライダルビジネス専門学校 群馬県知事認可  
ブライダルスペシャリスト学科設置 【定員 商業実務専門課程 80名】
- 平成23年 群馬県美容専門学校 新学科設置  
ビューティースタylist学科 【定員 男女 60名】  
エステティック学科 【定員 女子 60名】
- 平成28年 群馬県美容専門学校 新学科設置  
ビューティテクニカル学科 【定員 男女 40名】
- 平成28年 アーツ サウンド ビジュアル専門学校 群馬県知事認可  
文化・教養専門課程 舞台音響照明学科 【定員 男女 40名】  
ビジュアル・サウンド学科 【定員 男女 40名】  
ライブ・イベント学科 【定員 男女 40名】
- 平成29年 群馬県美容専門学校 新学科設置  
サスーン スクールシップ ヘア stylist学科 【定員 男女 80名】
- 平成30年 群馬ブライダルビジネス専門学校  
ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校に4月校名変更
- 平成31年 ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校 新校舎に移転

## II 各学科等の教育

### (1) 学科名、入学定員数、入学者数、在学総数

R1.5.1 現在

学科名	入学定員	入学者数	在学総数
舞台音響照明学科	20名	10名	24名
ビジュアル・ムービークリエイター学科	10名	1名	3名
ライブ・イベントプランナー学科	10名	6名	6名

### (2) 各学科概要等

各学科の概要につきましては、ホームページのコース紹介や学校パンフレットに記載しておりますので、そちらをご確認くださいませ。

アーツ サウンド ビジュアル専門学校ホームページ (<http://www.asvcoll-ac.jp/>)

## (3) 各学科カリキュラム

## 舞台音響照明学科 (専門課程)

	授業科目	1年次		2年次		総授業 時数	総単位数
		授業時数	単位数	授業時数	単位数		
専門科目	舞台音響技術概論	30	2	30	2	60	4
	照明技術概論	30	2			30	2
	音楽・楽器論	30	2			30	2
	舞台技術安全理論	30	2			30	2
	舞台機構調整技能理論	60	4			60	4
	舞台機構調整技能士国家検定試験対策	30	2	30	2	60	4
	舞台テレビジョン照明技術者理論	60	4			60	4
	舞台テレビジョン照明技術者技能検定試験対策			30	2	30	2
	クリエイターの権利と法律	60	4			60	4
	芸術文化論			30	2	30	2
	小計	330	22	120	8	450	30
教養科目	ビジネスマナー	30	2			30	2
	キャリアデザイン	30	2	30	2	60	4
	小計	60	4	30	2	90	6
演習・実習科目	Mac ベーシック	30	1			30	1
	PA・サウンドベーシック	90	3			90	3
	PA・サウンドアドバンス			120	4	120	4
	ライティングベーシック	120	4			120	4
	ライティングアドバンス			120	4	120	4
	テクニカルメンテナンス	30	1			30	1
	ローディーテクニク	30	1	30	1	60	2
	ProTools 実習	30	1	30	1	60	2
	ムービングライトシステム			60	2	60	2
	デジタルライティングシステム			30	1	30	1
	ステージ演出実習	90	3	90	3	180	6
	舞台機構調整技能実習	60	2	60	2	120	4
	舞台音響照明実地研修			30	1	30	1
	サウンド&ライティングプロダクション			60	2	60	2
	バンドアンサンブル	30	1	30	1	60	2
	小計	510	17	660	22	1170	39
	合計	900	43	810	32	1710	75

ビジュアル・ムービークリエイター学科（専門課程）

	授業科目	1年次		2年次		総授業 時数	総単位数
		授業時数	単位数	授業時数	単位数		
専門科目	CGクリエイター理論Ⅰ・Ⅱ	60	4	90	6	150	10
	映像音響処理技術者理論Ⅰ・Ⅱ	60	4	30	2	90	6
	映像編集理論	30	2			30	2
	音響技術理論Ⅰ・Ⅱ	30	2	30	2	60	4
	デジタルデザイン概論	30	2			30	2
	撮影技術理論	30	2			30	2
	音楽・楽器論	30	2			30	2
	クリエイターの権利と法律	60	4			60	4
	舞台機構調整技能理論	90	6			90	6
	舞台機構調整技能国家検定試験対策			60	4	60	4
	芸術文化論			30	2	30	2
	小計	420	28	240	16	660	44
教養科目	ビジネスマナー	30	2			30	2
	キャリアデザイン	30	2	30	2	60	4
	小計	60	4	30	2	90	6
演習・実習科目	2DCG実習	30	1	60	2	90	3
	3DCG実習	30	1	60	2	90	3
	Macベーシック	30	1			30	1
	デジタルデザイン実習Ⅰ・Ⅱ	30	1	30	1	60	2
	ドローン実習Ⅰ・Ⅱ	30	1	30	1	60	2
	ロケーション撮影実習Ⅰ・Ⅱ	60	2	60	2	120	4
	映像編集実習Ⅰ・Ⅱ	60	2	90	3	150	5
	ビジュアル・ムービークリエイター実地研修			30	1	30	1
	映像機器操作実習Ⅰ・Ⅱ	30	1	60	2	90	3
	舞台機構調整技能実習	60	2	60	2	120	4
	バンドアンサンブル	30	1	30	1	60	2
	映像表現実習			60	2	60	2
	小計	390	13	570	19	960	32
	合計	870	45	840	37	1710	82

ライブ・イベントプランナー学科（専門課程）

	授業科目	1年次		2年次		総授業 時数	総単位数
		授業時数	単位数	授業時数	単位数		
専門科目	舞台機構調整技能理論	60	4			60	4
	舞台機構調整技能国家検定試験対策	30	2	30	2	60	4
	舞台技術安全理論	30	2			30	2
	イベント基礎概論	90	6			90	6
	スポーツイベント概論			45	3	45	3
	ユニバーサルイベント概論			45	3	45	3
	プロデューサー論			30	2	30	2
	エンターテインメントビジネス論	30	2	30	2	60	4
	イベント企画論	30	2	30	2	60	4
	芸術文化論			30	2	30	2
	クリエイターの権利と法律	60	4			60	4
	ライブイベントビジネス著作権			30	2	30	2
	広報・マーケティング概論	60	4			60	4
	小計	390	26	270	18	660	44
教養科目	ビジネスマナー	30	2			30	2
	キャリアデザイン	30	2	30	2	60	4
	小計	60	4	30	2	90	6
演習・実習科目	舞台機構調整技能実習	60	2	60	2	120	4
	ステージ演出実習	90	3	90	3	180	6
	イベント企画・プランニング実習	120	4	90	3	210	7
	ライブ・イベント制作実習	150	5	120	4	270	9
	バンドアンサンブル	30	1	30	1	60	2
	イベントマネジメントプロダクション			60	2	60	2
	プロデューサーゼミ			30	1	30	1
	ライブ・イベントプランナー実施研修			30	1	30	1
	小計	450	15	510	17	960	32
合計	900	45	810	37	1710	82	

#### (4) 進級及び卒業要件

##### 【学修評価方法】

学修の評価は、科目により試験得点による評価や実習の成果、レポート内容・提出状況、受講態度等を総合的に勘案し5段階の成績評価とし、C評価以上を合格とする。

S：特に優秀な成績・・・100～90点

A：すぐれた成績・・・89～80点

B：一応その科目の要求を満たす成績・・・79～70点

C：合格と認められる最低の成績・・・69～60点

F：不合格・・・59点以下

全学科とも試験は、以下のとおりとする。

1年次 前期：期末試験 後期：進級試験

2年次 前期：期末試験 後期：卒業試験

##### 【進級・卒業要件】

進級時・・・1年次に定められた授業科目を履修し、単位を修得したもの。また、1年次に納入すべき授業料その他の金額をすべて納入しているもの。

卒業時・・・2年次以上在学し、各学科で定める授業科目を履修し、舞台音響照明学科は75単位以上、ビジュアル・ムービークリエイター学科は82単位以上、ライブ・イベントプランナー学科は82単位以上を修得したもの。また、納入すべき授業料その他の金額をすべて納入しているもの。

#### (5) 取得資格

学科名	資格・検定
舞台音響照明学科	3級舞台機構調整技能士 舞台・テレビジョン照明技術者技能検定2級 ビジネス能力検定3級

ビジュアル・サウンド学科	3級舞台機構調整技能士 映像音響処理技術者資格 CGクリエイター検定（ベーシック） ビジネス能力検定3級
ライブ・イベント学科	3級舞台機構調整技能士 スポーツイベント検定 ユニバーサルイベント検定 イベント検定（ベーシック） ビジネス著作権検定初級 ビジネス能力検定3級

#### (6) 卒業者数、卒業後の進路

##### 【平成30年度卒業生実績】

学科名	卒業者数	就職者数	進学者数	就職進学率
舞台音響照明学科	3名	3名	0名	100%
ビジュアル・サウンド学科	0名	0名	0名	—
ライブ・イベント学科	0名	0名	0名	—

主な就職先については、ホームページや学校パンフレットに記載しておりますので、そちらをご覧ください。

アーツ サウンド ビジュアル専門学校ホームページ (<http://www.asvcoll-ac.jp/school-jobdata.html>)

### Ⅲ教職員

アーツ サウンド ビジュアル専門学校

R1.5.1 現在

学校長	事務 局長	事務員	教務 課長	教員 (専任)	教員 (兼任)	合計
1名	1名	1名	1名	2名	10名	16名

### Ⅳキャリア教育・実践的職業教育

#### (1) キャリア教育への取組状況

##### 1. 個別指導

就職担当者と担任により学生一人ひとりと納得できるまで話し合い、将来の方向性を定めていきます。その希望をもとに、各種美容関係企業についての研究や就職に対するサポートを個別

に実施していきます。

## 2. 就職対策セミナー

本校のキャリア・サポーターや企業との連携により業界の形態や動向、求められる人材などの情報のレクチャーや、就職活動の流れ、履歴書・エントリーシート作成指導、就職後に必要な技術やマナーなどのアドバイスをを行います。

## 3. インターンシップ

本校では2年次にインターンシップを実施しています。業界の仕事を肌で感じ将来の職業に対する理解を深めます。

## (2) 実習・実技等の取組状況

本校では、以下の企業と教育連携を行い、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的に指導を行っております。

<教育連携企業一覧>

授業科目名	連携企業名	対象学科
舞台機構調整技能実習	株式会社亜聖	舞台音響照明学科 ビジュアル・ムービークリエイター学科 ライブ・イベントプランナー学科
ライティングベーシック (フォーカシング)	有限会社中央舞台サービス	舞台音響照明学科

## (3) 就職支援等の取組状況

### 1. 企業研究や面接指導

学生一人一人の能力を考慮し、企業研究を実施。また、エントリーシート作成、履歴書（志望動機）作成、SPI、グループディスカッション、グループ面接、個人面接などの指導を行っている。

### 2. 就職情報の閲覧環境整備

求人票やガイダンス情報、企業パンフレット等の専用スペースを設け、常時閲覧できる環境を整えております。

## V 様々な教育活動・教育環境

### (1) 学校行事への取組状況

平成30年度実績

4月	入学式 健康診断 ボーリング大会 自治会選挙
5月	校外研修 (1000人ロックフェス)
6月	サスーンカットコンテスト校内予選 Kawaii 選手権校内予選
7月	ビューティテクニクリサイタル 3級舞台機構調整技能士 (筆記試験)
8月	夏休み 3級舞台機構調整技能士 (実技試験) 高校生バンドフェスティバル

9月	校外研修：山人音楽祭
10月	インターンシップ 学園祭（三校合同）
11月	企業説明会（株式会社 共立） 校外研修：ゲンマー揆
12月	クリスマス会
1月	
2月	校外研修：琉球国祭り太鼓
3月	卒業式

(2) 課外活動等の状況

平成30年度実績

9月	前橋市 風の街音楽祭運営進行ボランティア
----	----------------------

VI 学生の生活支援

(1) 学生支援への取組状況

1. 就職に関する支援

- ・担任と広報・キャリア部によるサポート体制
- ・インターンシップを実施

2. その他の支援

- ・学費など経済的な支援体制として奨学金貸与機関の斡旋
- ・年1回、健康診断を実施
- ・アルバイト求人を公開

VII 学生納付金及び修学支援

(1) 学生納付金の取扱

舞台音響照明学科

	入学金	授業料	実習費	教育充実費	設備維持費	教材費・諸費	合計
1年次	100,000円	600,000円	200,000円	50,000円	300,000円	95,000円	1,345,000円
2年次		600,000円	200,000円	50,000円	300,000円	30,000円	1,180,000円

ビジュアル・ムービークリエイター学科

	入学金	授業料	実習費	教育充実費	設備維持費	教材費・諸費	合計
1年次	100,000円	600,000円	200,000円	50,000円	300,000円	105,000円	1,355,000円
2年次		600,000円	200,000円	50,000円	300,000円	30,000円	1,180,000円

ライブ・イベントプランナー学科

	入学金	授業料	実習費	教育充実費	設備維持費	教材費・諸費	合計
1年次	100,000円	600,000円	200,000円	50,000円	300,000円	95,000円	1,345,000円
2年次		600,000円	200,000円	50,000円	300,000円	30,000円	1,180,000円

### (3) 修学支援の内容

#### 1. 表彰制度

最優秀学生賞、優秀学生賞、理事長賞、副理事長賞、各協会賞など卒業生対象に表彰しています。

#### 2. 新幹線通学支援制度

本校が定める遠隔地から通学した場合、定期代を一定料金補助する制度です。

#### 3. 家賃支援制度

本校が定める遠隔地から通学が困難と認められた場合、家賃の一部を補助する制度です。

## VIII 学園の財務

平成 30 年度財務諸表

**資金収支計算書**

平成30年4月1日から平成31年3月31日

(単位:円)

収入の部	
科目	金額
学生生徒等納入金収入	248,127,122
手数料収入	5,175,600
補助金収入	7,964,200
付随事業・収益事業収入	526,697
受取利息・配当金収入	2,054
雑収入	12,019,957
前受金収入	216,061,230
その他の収入	93,901,462
資金収入調整勘定	△ 251,536,634
前年度繰越支払資金	508,942,734
収入の部合計	841,184,422
支出の部	
科目	金額
人件費支出	165,519,369
経費支出	109,061,384
施設関係支出	39,600,000
設備関係支出	748,440
その他の支出	93,608,100
資金支出調整勘定	△ 6,636,726
翌年度繰越支払資金	439,283,855
支出の部合計	841,184,422

## 事業活動収支計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日

(単位:円)

		科目	金額
		<b>教育活動収支</b>	<b>事業活動収入の部</b>
		手数料	5,175,600
		経常費等補助金	7,964,200
		付随事業収入	526,697
		雑収入	12,019,957
		<b>教育活動収入計</b>	<b>273,813,576</b>
	<b>事業活動支出の部</b>	人件費	165,519,369
		経費	181,050,846
		徴収不能額等	33,401
		<b>教育活動支出計</b>	<b>346,603,616</b>
		<b>教育活動収支差額</b>	<b>△ 72,790,040</b>
<b>教育活動外収支</b>	<b>収入の部</b>	受取利息・配当金	2,054
		その他の教育活動外収入	0
		<b>教育活動外収入計</b>	<b>2,054</b>
	<b>支出の部</b>	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		<b>教育活動外支出計</b>	<b>0</b>
		<b>教育活動外収支差額</b>	<b>2,054</b>
		<b>経常収支差額</b>	<b>△ 72,787,986</b>
<b>特別収支</b>	<b>収入の部</b>	資産売却差額	0
		その他の特別収入	0
		<b>特別収入計</b>	<b>0</b>
	<b>支出の部</b>	資産処分差額	0
		その他の特別支出	0
		<b>特別支出計</b>	<b>0</b>
		<b>特別収支差額</b>	<b>0</b>
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>			<b>△ 72,787,986</b>
<b>基本金組入額合計</b>			<b>△ 40,348,440</b>
<b>当年度収支差額</b>			<b>△ 113,136,426</b>
<b>前年度繰越収支差額</b>			<b>△ 631,049,899</b>
<b>翌年度繰越収支差額</b>			<b>△ 744,186,325</b>
<b>(参考)</b>			
事業活動収入計(旧)帰属収入			273,815,630
事業活動支出計(旧)消費支出			346,603,616

## 貸借対照表

平成31年3月31日

(単位:円)

資産の部	
科目	金額
固定資産	2,078,277,678
流動資産	452,529,996
資産の部合計	2,530,807,674
負債の部	
科目	金額
固定負債	0
流動負債	269,258,763
負債の部合計	269,258,763
純資産の部	
科目	金額
基本金	3,005,735,236
繰越収支差額	△ 744,186,325
純資産の部合計	2,261,548,911
負債及び純資産の部合計	2,530,807,674

令和元年7月3日

平成30年度  
自己点検・自己評価報告書

学校法人群馬県美容学園

群馬県美容専門学校

ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校

アーツ サウンド ビジュアル専門学校

## I. 平成 30 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な

### 目標や計画についての評価 報告

#### 1. 国家試験や各検定の合格率の維持・向上を図る

国家試験や各検定では全国平均を上回る高水準を維持し、さらなる向上を目指す為に試験対策授業の強化に取り組む。

#### 2. 入学者数の拡大を図る

学生支援を充実させることで競合校との差別化を図ることや、オープンキャンパス・進路ガイダンス・模擬授業の講師派遣・メディアを活用した情報発信など、広報活動の強化をし、入学者数の拡大を図る。

#### 3. 就職率（進路決定率）の維持・向上を図る

就職セミナーや就職ガイダンスを実施することで、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育成する。

#### 4. 退学者・休学者の低減を図る

退学者・休学者の増加は財務基盤や広報活動に影響を与える恐れのある重大な問題である。よって、該当学生への個別対応力強化（保護者との連絡強化、面談回数の増加、学校全体としての対応）、勉学意欲の維持、指導法の改善などの対策を講じて、退学者・休学者の低減に努める。

#### 5. 地域貢献に努める

地域社会貢献の為にボランティア活動に積極的に参加する他、生涯学習にも目を向け生涯学習社会の実現に貢献する。

## 1. 国家試験や各検定の合格率の維持・向上を図る

### **【サスン スクールシップ ヘアスタイリスト学科】（群馬県美容専門学校）**

- ・美容師国家試験において全国平均を下回る結果となってしまった。
- ・会場練習や衛生の練習など、美容師学科と共に例年以上の対策を行ったがこのような結果になってしまったということは、教員自身が見落としている大きなポイントがあると考えられる。
- ・不合格者の自己情報開示請求の結果を確認し、教員全体で共有し合格率 100%を目指す。

### **【美容師学科】（群馬県美容専門学校）**

- ・美容師国家試験において合格率低下の原因追究のため、自己情報開示請求させ試験対策について再度検討し直すとともに、教員の指導力向上に努める。
- ・今年度より筆記試験の科目数が増えるため情報の収集を行い、学生の能力に応じた対策を行う。
- ・メイクアップ検定においては、筆記による不合格者が多かった。学科試験対策の見直しと指導方法について検討する。

### **【ビューティスタイリスト学科】（群馬県美容専門学校）**

- ・パーソナルカラー検定では、講師を変更したが、思うような結果につながらなかった。
- ・検定内容を重視しすぎて、本来のパーソナルカラーの楽しさが伝わらず、取り組みにばらつきがでてしまった。
- ・検定受験の検討及び、実際につながる授業展開を増やしていく。
- ・その他の検定では、引き続き合格率の維持に努める。

### **【エステティック学科】（群馬県美容専門学校）**

- ・シデスコ試験においては、海外から来校する試験官の採点傾向、合格ラインの情報収集を心掛け、全員合格をすることができた。
- ・他の検定も引き続き合格率の維持に努めていく。

### **【ウェディングプランナー学科】（ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校）**

- ・前年度より合格率が下がったレストランサービス技能検定、ホテルビジネス実務検定は担当講師の変更に原因があると考えられる。
- ・秘書検定に関しては昨年まで2級取得を目指していたが、3級受験から挑戦するように変更し合格率が上がった。更に上級の資格を目指していく。

- ・ブライダルコーディネーター技能検定は第一回目で過去問の検証ができない中、高い合格率に繋げることができたので全員合格を目指す。

### 【舞台音響照明学科】（アーツ サウンド ビジュアル専門学校）

- ・舞台機構調整技能士（国家検定）において学科試験は3名全員が合格したが実技において2名が不合格。検定に使用される機器の操作ミスが原因であったと考えられる。
- ・今後は反省を踏まえ、実技実習授業を増加させ機器の不安要素を無くす。
- ・学科試験は引き続き合格できるように過去問を使用し授業を行う。

## 2. 入学者数の拡大を図る

### 【広報・キャリア部】

#### 《校外ガイダンス》

- ・進学仲業者が主催する校外進路ガイダンスでは進路の決まりつつある高校3年生対象に学校説明を行う「学校別・個別ガイダンス」を中心に参加を行った。
- ・参加可否については対象学年・場所・時期を厳しく精査して決定している。
- ・アーツサウンドビジュアル専門学校に関しては高等学校への学校周知の向上により、混同されがちだった「声優・俳優」「ミュージシャン」といった演者希望の学生はほとんどなく、本校分野にマッチした学生に対してのアプローチができたと感じている。

#### 《校内オープンキャンパス・イベント》

- ・オープンキャンパスでは学生募集を目標に学校・募集要項説明、施設見学はもちろんのこと、参加者が希望分野で毎回異なる技術の体験ができるプログラムを実施している。
- ・在校生も参加させることで、将来像を想起させるとともに普段の学校生活の雰囲気伝え、入学後のミスマッチを防ぐ目的も兼ねている。
- ・リピート来校を誘引するよう、イベント前には必ず参加済みの高校生にメールでお知らせを行うことで来校促進を図った。
- ・来校時には不安の払拭と親近感を持って接してもらえよう積極的な声掛けを重視して行った。
- ・まずは入学者数を増やすことを念頭に置きながら、卒業までの学校生活と教育内容をしっかりと理解して貰えるよう個別のフォローを心掛けていく。

#### 《県内メディア取材状況》

- ・平成30年度に本学園校内外で開催されたイベント・コンテストに対して行われたメ

ディア取材は以下の通りとなっている。

- ・本学園校への入学者は9割以上が県内出身者となっている為、学生本人はもちろん保護者にも向けた無料の効果的な広告媒体として今後も積極的に取材依頼を行っていく。

#### 《その他の学生募集活動》

- ・その他の学生募集業務・広報活動として主に学校案内パンフレットの作成、学園ホームページ内容管理、SNSでの情報発信、県内メディア広告への出稿、進学ポータルサイト「ベスト進学ネット」への掲載を行った。

#### 《入学者数 前年度対比》

- ・群馬県美容専門学校では全体で11名増加し、昨年度大きく入学者数を減らしてしまった美容師学科が42名→53名と微増ながらも上向きとなった。
- ・ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校では昨年より3名少なく、ブライダル分野の人気低迷もあるが、次年度は新校舎移転・新学科設置と広報的なトピックも多く、積極的に募集活動を行っていきたい。
- ・アーツサウンドビジュアル専門学校では昨年度に引き続き好調を維持しているが、近隣に競合校の存在が無いことを考えればより多くの入学者が期待できるので、こちらも高校軽音楽部や演劇部との連携を図りながら広報を行っていく。
- ・群馬県美容専門学校、ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校に関しては、やはり近隣競合校との比較選択が入学者数に直結していると感じている。
- ・学校教育の背骨となるカリキュラムや施設設備等、競合校との差別化を明確に魅力的に打ち出すことで本学園校のアピールに努めていく。
- ・昨年ご指摘いただいた高校訪問については、前述の高校内ガイダンスの際に必ず名刺交換・情報交換を行い、学園トピックのアピールを行った。

### 3. 就職率（進路決定率）の維持・向上を図る

#### 【サスーン スクールシップ ヘアスタイリスト学科

- ・就職希望者全員が2年次早期内定。
- ・3名が複数のサロンに合格。
- ・即戦力となる学生という学科の特色をより強くアピールしていき、今後も早期全員決定を目指す。
- ・ロンドンサスーンアカデミーでは認定校だけの特別なコースが受講できる為、進学という選択肢も学生に周知させる。

### 【美容師学科】

- ・就職ガイダンスや企業主催の説明会等に参加させ、就職に関する意識づけに努めた。
- ・各担任の細かいアドバイスが、就職決定に結びついたため、今後も企業研究に努め、個人個人にあったアドバイスが提供できるよう教職員全体で努めていく。

### 【ビューティスタイリスト学科】

- ・希望する職種のアルバイトなどを促し、業界の理解に努めさせた結果、ブライダル関係は早々に内定をもらえた。
- ・担任からの細かいアドバイス、求人情報の提供に努め、全員が希望する進路を歩むことができるようサポートをしていく。

### 【エステティック学科】

- ・今年度も校内の会社説明会や大手サロンの個別説明会を実施し、早々に全員が希望するエステサロンに内定を頂くことができた。引き続き、担任や業界からの情報収集を行い、就職サポートを行っていく。

### 【ウェディングプランナー学科】

- ・企業様に協力して頂き、特別セミナーを開催。
- ・授業においてグループディスカッションや発表する機会を多くし、繰り返しの練習とフィードバックで自信に繋がる努力をした。
- ・個人面接の練習は企業や業種にあったアドバイスに努めた。
- ・卒業生が来校した際に、在校生にアドバイスをしていくことで心に響いている様子が伺えるので引続き行いたい。

### 【舞台音響照明学科】

- ・県内外の企業やプロダクションについての情報収集を行わせる。
- ・各人の希望に沿った業種であるかを授業や面談にて指導する。
- ・活動状況には個人差はあったが、全員が県内の企業に就職をすることになった。
- ・給与面で学生の思いとの差異があり、内定まで時間がかかった。

### 【広報・キャリア部】

- ・美容系サロン、ブライダル・ホスピタリティ業界、エンターテイメント業界の各企業の対応・情報交換に加え、求人情報の受付・整理・掲示を実施している。
- ・群馬県美容専門学校では学校内での就職ガイダンスを年間5回実施した。
- ・個別に企業をお招きした校内企業講話や会社説明会も各校で（群馬県美容専門学校4件、ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校7件、アーツサウンドビジュアル専

門学校 1 件) 実施した。

#### 《平成 30 年度 就職率》

- ・群馬県美容専門学校、ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校、アーツサウンドビジュアル専門学校ともに就職希望者（進学/結婚/その他進路を除く）については就職率 100%を達成することができた。
- ・次年度もこの数字を継続できるよう企業よりの情報やトピックについては学校の窓口としてスピード感を重要視して学生への公開に努めていく。
- ・大きく学生数の増加したアーツサウンドビジュアル専門学校については積極的にこちらから関連企業への訪問や挨拶を行い、求人情報や業界についての最新情報を定期的にいただけるように注力をしていく。

## 4. 退学者・休学者の低減を図る

### 【サスン スクールシップ ヘアスタイリスト学科】

- ・入学時から遅刻が多く、面談を繰り返していたが就職希望ということで 1 名の退学者をだしてしまった。
- ・美容の魅力を早期に伝え、国家資格取得まで導ける指導を行う。

### 【美容師学科】

- ・各クラスで 4 月中には個人面談を行い、その後も定期的に面談を行うことで、学生の内面の把握に努めた。
- ・各種イベントを開催し、コミュニケーションが自然に取れる環境を工夫した。
- ・欠席や遅刻が続いた学生に対しては、保護者へ連絡し家庭と学校とで情報を共有することで早期に状況の改善に努めた。

### 【ビューティスタイリスト学科】

- ・担当教員及び教員間のコミュニケーション不足が、学生対応の遅れを生じさせ、多くの退学者をだしてしまった。
- ・担当教員は、ビューティスタイリスト学科、兼エステティック学科の部長という立場であったが、相談、報告がなく、業務の滞りもあり、昨年末退職に至った。
- ・同じことを繰り返さないよう、細心の注意をはらい、ビューティスタイリスト学科の建て直しに努める。

### 【エステティック学科】

- ・少人数なため、学生間の様子に注意し、些細な変化を見過ごさず、早めの面談、対応

を心がけた。

- ・2年生はシデスコ資格取得という目標に向けて、全員が同じ方向を見ることができた。

#### **【ウェディングプランナー学科】**

- ・ホームルームを多く設け、今まで以上に学生の様子を観察、また下校時などには積極的に学生とのコミュニケーションを図り、状況の把握に努めた結果、退学率の低下に繋がった。
- ・入学後の早い時期に校内行事や校外研修などを開催し交流を深められるよう計画、「楽しい」を感じる雰囲気作りに努めた。

#### **【舞台音響照明学科】**

- ・定期的に個人面談、休み時間、放課後に学生とコミュニケーションの機会を作った。
- ・教員全員で情報を共有して学生対応にあたる。
- ・将来への不安、人間関係の悩みについて時間を作りアドバイスを行った。

## **5. 地域貢献に努める**

#### **【広報・キャリア部】**

- ・例年実施しているエステティックボランティアに加え、アーツサウンドビジュアル専門学校との周知に伴い、新たにステージ・イベントスタッフ系ボランティア、また講習依頼が増加している。
- ・学生課外活動は社会・地域貢献だけに留まらず、学外での実地研修として貴重な学習の機会であり、また情報発信として広報的な役割も強く、重要視している。

## Ⅱ. 平成 30 年度 評価項目の達成及び取組状況 報告

## 1 教育理念・目標

<p>◆建学の精神</p> <p>「美しい心と技術の調和」</p>
<p>◆教育目標（群馬県美容専門学校）</p> <p>(1) 教養高く、知識、技能に優れ、次の世代を担う社会人としての美容技術者の養成</p> <p>(2) 科学知識に加えて、自らの創意工夫により技術や感覚を養う能力の育成</p> <p>(3) お互いに尊重しながら、同じ目標に向かって努力する力の育成</p> <p>◆教育目標（ウェディング・ホテル&amp;ツーリズム専門学校・ アーツ サウンド ビジュアル専門学校）</p> <p>(1) 教養高く、知識、技能に優れ、次の世代を担う社会人の養成</p> <p>(2) 自ら創意工夫する能力の育成</p> <p>(3) お互いに尊重しながら、同じ目標に向かって努力する力の育成</p>
<p>◆校訓（群馬県美容専門学校）</p> <p>こころ（Heart）、技（Hand）、知（Head）の3Hの法則</p> <p>1. 心：「ホスピタリティマインド、コミュニケーション能力、チームワーク」のある真心の育成。</p> <p>2. 技：「美しく、可愛く、華やか」を「正確、スピーディー」に表現できる技術と所作の育成。</p> <p>3. 知：「専門知識、教養、ビジネス能力」のある知識の育成。</p> <p>3H（心・技・知）をバランスよく大きく育成していくことで、社会に貢献できる有用な人材になれるという法則です。</p> <p>◆校訓（ウェディング・ホテル&amp;ツーリズム専門学校）</p> <p>Heart（まごころ）、Head（知識）、Hand（技能、所作）の「3Hの法則」</p> <p>1. Heart（まごころ）：「ホスピタリティマインド、コミュニケーション力、チームワーク」がある人財の育成。</p> <p>2. Head（知識）：「教養、専門知識、ビジネス能力」がある人財の育成。</p> <p>3. Hand（技能、所作）：美しく、可愛く、華やかさを正確にスピーディーに表現できる人財の育成。</p> <p>3H（まごころ・知識・技能、所作）をバランスよく学ぶことで、総合力が身につく、社会に貢献できる有用な人財になれるという法則</p> <p>◆校訓（アーツ サウンド ビジュアル専門学校）</p> <p>3Hの法則（バランスの取れた3つのHを備えた人材の育成）</p> <p>Heart：「ホスピタリティマインド、コミュニケーション能力、チームワーク」まごころ</p> <p>Hand：「安全、正確、スピーディ」所作</p> <p>Head：「教養、専門知識、ビジネス感覚」知識</p>

◆目的（群馬県美容専門学校 学則第1条）

本校は、学校教育法に従い、美容に必要な知識と技能を授けるとともに、豊かな人間性を備えた人材の育成を目的とする。

◆目的（ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校 学則第1条）

本校は、学校教育法に従い、冠婚葬祭業、観光業、宿泊業、またこれらを取り巻くサービス業界などに必要な専門知識と実践的な技能を授けるとともに、豊かな人間性を備えた人材の育成を目的とする。

◆目的（アーツ サウンド ビジュアル専門学校 学則第1条）

本校は、学校教育法に従い、優れた専門性と豊かな創造性を教育の基本理念とし、文化・芸術・舞台・音響・照明・ビジュアル分野に必要な知識と技能を養成するとともに、文化的教養の向上を図り、社会に貢献し得る人材の育成を目的とする。

上記の通り理念は、建学の精神と教育目標として、目的は、各校の学則第1条に人材育成像は校訓として明確に定まっている。これらを全教職員が理解をし、入学時に学生全員で学生便覧を使用し読み合わせを行い学生に周知を図っている。保護者への周知は、入学式での式辞や学生を通して周知を図っている。

業界の動向やニーズ調査については、各学科における業界関係者を教育課程編成委員として、教育課程編成委員会を年2回実施している。また、業界紙や業界新聞、ホームページや SNS 等でも関連業界の情報をいち早く察知し各学科の将来構想を見据えたくて業界の動向やニーズも把握している。

## 2 学校運営

学校運営における組織の整備を行い、事業計画、情報システム化、コンプライアンス体制をしっかりと構築している。適時、マネジメントレビューを実施し現状確認、分析、見直し、改善を図っている。運営組織や意思決定機能については、学生便覧に示され円滑に運営されている。また、定期的に役職者会議や教職員会議を行うことにより、教職員一同で情報の共有化をはかり、学生や保護者、その他の利害関係者からの苦情等への対応及び信頼関係を構築している。

## 3 教育活動

教育活動上の方針は明確であり、全教職員の意識統一がなされている。

教職員については一定水準の人材を確保しており、外部研修への参加を推奨している他、学内においても積極的に研修会を実施している。教員個々が職責の自覚のもと、一層の自己研鑽に努めている。

学生指導においては、個々の学生の習熟度・理解度を把握し、レベルに応じてサポートに努め、職業意識や自立意識の向上を図っている。

#### 4 学習成果

学習成果及び成績評価においては、カリキュラムに合わせたシラバスの作成により評価目標や範囲を明確な基準で実施している。また、本校の履修管理システムを用いることで、公正、公平に行われ成績証明書等にも反映させている。今後は、業界のニーズ調査に基づき、評価項目が企業等から重要視されるよう通用性を高めていきたい。卒業生の動向の把握に努め、卒業後のキャリア形成への情報収集をより一層深めていきたい。

#### 5 学生支援

進路・就職に関する支援として、校内での就職ガイダンスや企業説明会を開催、各関連業種の担当者に来校して頂き、会社概要や募集の詳細を説明して頂く機会を設けている。また毎年4月に全学生対象の健康診断において学生の健康管理を行っている。個々の学生相談として各担任が定期的に個人面談を行い、場合によっては保護者との連携を密に行い、早期問題解決に努めている。

#### 6 教育環境

教育環境については、専門性の高い実習が多いため施設、設備、機材関連が充実しており、定期的に管理、点検が行われている。防災対策に関しても年に1回は避難訓練を実施し、消防計画、地震対策措置の周知徹底に努めている。海外研修やインターンシップ、校外実習などを積極的に行うことで企業実習を有効に活用し、即戦力として活躍できる人材を育成する教育環境を更に充実させていく。

#### 7 学生の受入れ募集

学生の受け入れ募集に関しては少子化の影響や本校該当分野における業界の波（特に美容分野・ブライダル分野における人気低迷）もあり伸び悩んでいる面もあるが、入学希望者に向けた本学園3校の特色、目指すキャリア、学科・コース設定、学費・教材費といった点は校内オープンキャンパス、校外ガイダンスにおいても適切に理解されていると感じている。特に各学校での多彩な学科・コース設定でのカリキュラム・取得可能資格の差異においては卒業後の仕事選択においても重要な事項となり、近隣競合校との差別化の為にも尚一層の浸透を図っていかなければならない。また入学時に交わされる契約やそれに伴う文書等も慎重に管理を行い、適切に取り扱っている。

今後も教職員が一丸となって、複雑化する高校生の個々の進学状況を理解し、丁寧にフォローしていくことで信頼・信用される学生募集活動を日々心掛けていく。さらに外部委員の意見を参考に各高等学校への訪問も定期的実施し、高校生の動向や高等学校毎の進路状況、OB・OGの活躍等の情報交換で高等学校との連携・コミュニケーション

ンの強化を図っていく。

## 8 財務

公認会計士監査が年2回（5月と10月）、学園監査が年2回（4月と10月）適正に行われている。財務諸表は、5月に行われる評議員会、理事会で公表を行い、その後ホームページにて広く一般に公表もしている。

近年の学生人数の減少につき財務基盤は厳しい状況になりつつある。学園の財務基盤を継続的に安定に導けるよう、学生数を増やすことはもちろんのこと、できる限りの経費削減に努め、予算の収支計画通りに予算管理を適正に行っていく。

## 9 法令等の遵守

個人情報については、本学園の特定個人情報取扱規程に則り、適正に保護対策が取られ、ネットワーク上のセキュリティ対策も行っている。また、各種文書の管理についても本学園の文書管理規定に則り、適正に管理している。

本学園は、専修学校設置基準及び各種法令を遵守し学校運営が適正に行われており、法令の改正等にあたっては素早く対処している。法令の遵守は全教職員とも当然の義務と認識しており、共通の認識として深く浸透している。

自己点検・評価や内部監査に基づき提案された問題点や改善点は、法令を遵守し早急に対応できる体制を確立している。また、自己点検・評価についてホームページにて公表を行っている。

## 10 社会貢献・地域貢献

地域貢献・社会活動においては各外部団体、高等学校、また福祉施設等の様々なボランティア依頼について学校スケジュールを勘案の上、可能な限り積極的に参加を行っている。学校としても学内に留まらない専門知識・技術の実践の場と捉えており、実際のお客様（現場）を想定した貴重な学習の機会となっている。

公開講座・見学等においても各団体・高等学校（教員個人含め）より直接、進学業社を通じてと様々な打診にも対応している。また毎年開催されている学園祭ではシャンプー・エステ・メイク・ネイルといった美容体験（群馬県美容専門学校）、カフェでのバンケットサービス（ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校）、イベント運営（アーツサウンドビジュアル専門学校）といった学校内での学びを直接披露・体感していただく場を設けており、本学園校の該当分野の幅広い職業理解を得ると共に地域への謝恩の場としての機能も果たしている。

平成 30 年度  
学校関係者評価委員会  
報告書

評価対象期間 自：平成 30 年 4 月 1 日

至：平成 31 年 3 月 31 日

評価実施日 令和元年 8 月 26 日

学校法人 群馬県美容学園

群馬県美容専門学校

ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校

アーツサウンドビジュアル専門学校

# I 学校関係者評価の概要と実施状況

## 1. 学校関係者評価の実施について

本校では、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に対し、「平成30年度自己点検・自己評価」を行いました。その自己点検・評価結果について学校関係者評価委員会を開催し、外部関係者の方々に第三者の視点で評価して頂きました。学校関係者評価委員会での貴重なご意見や評価を今後の学校運営に反映させ、改善を図ることでより良い教育活動を行ってまいります。

## 2. 学校関係者評価委員名簿

評価委員名	所属及び役職
山形 正喜	関東地区理容師美容師養成施設協議会 会長
宮上 修	タカラベルモント株式会社 北関東理美容営業所 所長
真下 英明	群馬県旅館ホテル生活衛生同業組合 専務理事
高崎 利成	一般社団法人 日本音響家協会 代表理事 副会長
新井 博	新井博法律事務所 弁護士
富岡 政明	有限会社 富岡労務管理事務所 代表取締役

学校教職員	所属及び役職
住谷 知彦	群馬県美容専門学校/ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校/ アーツサウンドビジュアル専門学校 学校長
黒田 奈々	群馬県美容専門学校 教務部長
津久井 富美江	ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校 教務部長
田上 聖晃	群馬県美容専門学校 部長代理
長根 みちお	群馬県美容専門学校 教務課長
萩原 保	ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校 教務課長
横堀 正樹	アーツサウンドビジュアル専門学校 教務課長
小田部 高幸	群馬県美容専門学校/ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校/ アーツサウンドビジュアル専門学校 広報・キャリア部長
高橋 憲一	群馬県美容専門学校/ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校/ アーツサウンドビジュアル専門学校 事務局長

### 3. 学校関係者評価委員会実施状況

開催日：令和元年8月26日（月）14：00～

場 所：アーツサウンドビジュアル専門学校 1F スタジオD

次 第

- 1) 開会の言葉
- 2) 学校長挨拶
- 3) 学校関係者評価委員紹介
- 4) 協議事項

I. 平成30年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画についての  
評価及び報告

- ①国家検定や各検定の維持・向上を図る
- ②入学者数の拡大を図る
- ③就職率（進路決定率）の維持・向上を図る
- ④退学者・休学者の低減を図る
- ⑤地域貢献に努める

II. 平成30年度評価項目の達成及び取り組み状況報告

- ①教育理念・目標
- ②学校運営
- ③教育活動
- ④学習成果
- ⑤学生支援
- ⑥教育環境
- ⑦学生の受入れ募集
- ⑧財務
- ⑨法令等の遵守
- ⑩社会貢献・地域貢献

- 5) 閉会の言葉

## Ⅱ 評価報告

### I. 平成30年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

#### ①国家試験や各検定の合格率の維持・向上を図る

##### 【委員意見・評価】

[群馬県美容専門学校]

◆各検定の実技試験が目標の合格率に達していないのは指導方法やコミュニケーション等の基本的なことが欠けていたのではないかと見られる。これは経営の根幹や就職にも関わる問題として見直していかなければならない。

◆美容師のスタートに立つための国家試験合格は最低限の課題として継続性を持って取り組むべき。

[ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校]

◆概ね検定の合格率は高くこの数字を維持できるようこのまま頑張ってもらいたい。

◆合格率も高く、該当分野ならではの特色ある資格を学校外にアピールしていくこと。

[アーツサウンドビジュアル専門学校]

◆舞台機構調整技能士検定では実技試験といえども理論(仕組み)をしっかりと教えることが重要。場所や機材が変わったからといって扱えないのでは国家決定の意味をなさない。

##### 【学校側】

◇学生に不利益にならない様、検定における事前の調査や学校間・教員間での報告・連絡・相談と常にアンテナを張った情報収集で各検定合格率100%を目指していく。

#### ②入学者数の拡大を図る

##### 【委員意見・評価】

◆卒業後の業界イメージが学校入学者に直結している。特に美容分野は業界が率先して給与や勤務時間等の労働条件や福利厚生を見直し、イメージを回復させる必要がある。

◆学校に入学卒業した際の将来像「明るい未来」を提示、想起させる為に該当業界で活躍する卒業生や成功している例を具体的に広告塔として積極的に活用すべきではないか。

◆学園の組織力で卒業生とのネットワークを構築し、コミュニケーションを図ることで広報にフィードバックすることはできないか。

##### 【学校側】

◇卒業後の該当分野業界の発展や健全化については学校側としてアクションを起

こすことは難しいが、卒業生の広報活用については今後、積極的に検討していく。  
◇コース別の入学者数の増減については読みきれてはいないが、時代の流れを読みながら高校生のニーズに応えられる様、分析を怠らず広報活動に注力していく。

### ③就職率（進路決定率）の維持・向上を図る

#### 【委員意見・評価】

◆三校ともに高い就職率は評価できる。引き続きこの数字の維持と就職先のそれぞれの特性を鑑みながらフォローを行ってほしい。

#### 【学校側】

◇資格取得と就職は専門学校の重大な使命として、該当分野の業界への就職はもちろん、幅広い職業選択を視野に学校一丸となって取り組んでいく。

### ④退学者・休学者の低減を図る

#### 【委員意見・評価】

〔群馬県美容専門学校〕

◆（ビューティスタイリスト学科）学生の半数が退学に至ったことについては残った学生の不安の払拭や連鎖反応を防ぐためにも学校側の対応として説明やその後のケアをしっかりと行わなければいけない。

◆個人の問題ではなく学校全体の問題として捉え、悪いレッテルを貼られないよう慎重に対応していくこと。

#### 【学校側】

◇定期的な個人面談と日頃のコミュニケーションにより学生の抱える問題をフォローしていく。

### ⑤地域貢献に努める

#### 【委員意見・評価】

◆スケジュールや依頼内容で可能な限り、今後も積極的に実施して欲しい。

#### 【学校側】

◇広報的な効果も考えて、ますます強化していきたい。

## II. 平成 30 年度評価項目の達成及び取り組み状況

### ①教育理念・目標

#### 【学校側】

◇教育理念は、建学の精神と教育目標として、目的は、各校の学則第 1 条に人材育成像は校訓として明確に定まっている。これらを全教職員が理解をし、入学時に学生全員で学生便覧を使用し読み合わせを行い学生に周知を図っている。保護者への周知は、入学式での式辞や学生を通して周知を図っている。

◇業界の動向やニーズ調査については、各学科においての業界関係者を教育課程編成委員として、教育課程編成委員会を年2回実施している。また、業界紙や業界新聞、ホームページやSNS等でも関連業界の情報をいち早く察知し各学科の将来構想を見据えたうえで業界の動向やニーズも把握している。

#### 【委員意見・評価】

◆教育理念や目標、建学の精神は、明確に定まっており、ホームページ上にも公表、在学生はもちろん、学校を目指す希望者にも周知を図っている。さらに、企業や業界のニーズを調査・把握し、連携することで教育活動に役立ててもらいたい。

### ②学校運営

#### 【学校側】

◇学校運営における組織の整備を行い、事業計画、情報システム化、コンプライアンス体制をしっかりと構築している。適時、マネジメントレビューを実施し現状確認、分析、見直し、改善を図っている。

◇運営組織や意思決定機能については、学生便覧に示され円滑に運営されている。また、定期的に役職者会議や教職員会議を行うことにより、教職員一同で情報の共有化をはかり、学生や保護者、その他の利害関係者からの苦情等への対応及び信頼関係を構築している。

#### 【委員意見・評価】

◆苦情等において、保護者の意見と学生の意見の相違がみられることがある場合は、即時職員会議等で共有し、皆が共通の認識をもって保護者や学生対応をしてほしい。利害関係者においても同様。

### ③教育活動

#### 【学校側】

◇教育活動上の方針は明確であり、全教職員の意識統一がなされている。教職員については一定水準の人材を確保しており、外部研修への参加を推奨している他、学内においても積極的に研修会を実施している。教員個々が職責の自覚のもと、一層の自己研鑽に努めている。

◇学生指導においては、個々の学生の習熟度・理解度を把握し、レベルに応じてサポートに努め、職業意識や自立意識の向上を図っている。

#### 【委員意見・評価】

◆各学校、各学科で求める教育技術にも違いがあると思われるので、研修会等の充実を計画し、さらに教育の質の向上を図る活動を行ってほしい。

### ④学習成果

#### 【学校側】

◇学習成果及び成績評価においては、カリキュラムに合わせたシラバスの作成に

より評価目標や範囲を明確な基準で実施している。また、本校の履修管理システムを用いることで、公正、公平に行われ成績証明書等にも反映させている。今後は、業界のニーズ調査に基づき、評価項目が企業等から重要視されるよう通用性を高めていきたい。

◇卒業生の動向の把握に努め、卒業後のキャリア形成への情報収集をより一層深めていきたい。

#### 【委員意見・評価】

◆学習成果、成績評価は学期末、学年末に分析を行い次年度の参考にしてほしい。  
また卒業生の動向の情報収集においては今後の課題としていただき、在校生への教育活動へとフィードバックしていただきたい。

### ⑤学生支援

#### 【学校側】

◇進路・就職に関する支援として、校内での就職ガイダンスや企業説明会を開催、各関連業種の担当者に来校して頂き、会社概要や募集の詳細を説明して頂く機会を設けている。

◇毎年4月に全学生対象の健康診断において学生の健康管理を行っている。個々の学生相談として各担任が定期的に個人面談を行い、場合によっては保護者との連携を密に行い、早期問題解決に努めている。

#### 【委員意見・評価】

◆就職率がとても高いので学生や保護者の満足度も上がっているのではないかと。  
◆卒業後の活動記録を行い、店舗毎の離職率等、今後の指導に役立てては行かないだろうか。

### ⑥教育環境

#### 【学校側】

◇教育環境については、専門性の高い実習が多いため施設、設備、機材関連が充実しており、定期的に管理、点検が行われている。防災対策に関しても年に1回は避難訓練を実施し、消防計画、地震対策措置の周知徹底に努めている。

◇海外研修やインターンシップ、校外実習などを積極的に行うことで企業実習を有効に活用し、即戦力として活躍できる人材を育成する教育環境を更に充実させていく。

#### 【委員意見・評価】

◆教育環境は管理・点検が確実に実施されていると評価できる。  
◆防災については、火災だけでなくその他の災害についての対応も考えてはどうだろうか。

### ⑦学生の受入れ募集

#### 【学校側】

◇学生の受け入れ募集に関しては少子化の影響や本校該当分野における業界の波（特に美容分野・ブライダル分野における人気低迷）もあり伸び悩んでいる面もあるが、入学希望者に向けた本学園3校の特色、目指すキャリア、学科・コース設定、学費・教材費といった点は校内オープンキャンパス、校外ガイダンスにおいても適切に理解されていると感じている。特に各学校での多彩な学科・コース設定でのカリキュラム・取得可能資格の差異においては卒業後の仕事選択においても重要な事項となり、近隣競合校との差別化の為にも尚一層の浸透を図っていかねばならない。また入学時に交わされる契約やそれに伴う文書等も慎重に管理を行い、適切に取り扱っている。

◇今後も教職員が一丸となって、複雑化する高校生の個々の進学状況を理解し、丁寧にフォローしていくことで信頼・信用される学生募集活動を日々心掛けていく。さらに外部委員の意見を参考に各高等学校への訪問も定期的の実施し、高校生の動向や高等学校毎の進路状況、OB・OGの活躍等の情報交換で高等学校との連携・コミュニケーションの強化を図っていく。

#### 【委員意見・評価】

◆現状学生募集は適切に行われていると感じるが、学園のアピールポイントを全教職員で周知し統一、効果的に発信することで募集定員を満たす努力をより一層していただきたい。

### ⑧財務

#### 【学校側】

◇公認会計士監査が年2回（5月と10月）、学園監査が年2回（4月と10月）適正に行われている。財務諸表は、5月に行われる評議員会、理事会で公表を行い、その後ホームページにて広く一般に公表もしている。

◇近年の学生人数の減少につき財務基盤は厳しい状況になりつつある。学園の財務基盤を継続的に安定に導けるよう、学生数を増やすことはもちろんのこと、できる限りの経費削減に努め、予算の収支計画通りに予算管理を適正に行っていく。

#### 【委員意見・評価】

◆学生数が減りつつあるので予算管理をさらに徹底してほしい。

### ⑨法令等の遵守

#### 【学校側】

◇個人情報については、本学園の特定個人情報取扱規程に則り、適正に保護対策が取られ、ネットワーク上のセキュリティ対策も行っている。また、各種文書の管理についても本学園の文書管理規定に則り、適正に管理している。

◇本学園は、専修学校設置基準及び各種法令を遵守し学校運営が適正に行われており、法令の改正等に当たっても素早く対処している。法令の遵守は全教職員とも

当然の義務と認識しており、共通の認識として深く浸透している。

◇自己点検・評価や内部監査に基づき提案された問題点や改善点は、法令を遵守し早急に対応できる体制を確立している。また、自己点検・評価についてホームページにて公表を行っている。

#### 【委員意見・評価】

◆各種法令遵守は適切に保たれており、このまま学生への啓発も含め、適正に学校運営を行ってほしい。

### ⑩社会貢献・地域貢献

#### 【学校側】

◇地域貢献・社会活動においては各外部団体、高等学校、また福祉施設等の様々なボランティア依頼について学校スケジュールを勘案の上、可能な限り積極的に参加を行っている。学校としても学内に留まらない専門知識・技術の実践の場と捉えており、実際のお客様（現場）を想定した貴重な学習の機会となっている。

◇公開講座・見学等においても各団体・高等学校（教員個人含め）より直接、進学業社を通じてと様々な打診にも対応している。また毎年開催されている学園祭ではシャンプー・エステ・メイク・ネイルといった美容体験（群馬県美容専門学校）、カフェでのパンケットサービス（ウェディング・ホテル&ツーリズム専門学校）、イベント運営（アーツサウンドビジュアル専門学校）といった学校内での学びを直接披露・体感していただく場を設けており、本学園校の該当分野の幅広い職業理解を得ると共に地域への謝恩の場としての機能も果たしている。

#### 【委員意見・評価】

◆社会活動や地域貢献は積極的に行っており、評価できる。今後も学生の人間力の向上や地域のために貢献できる学校として機能を果たしてほしい。

#### 【委員意見総評】

◆今後の健全な学校運営の為には教職員の一致団結、密なコミュニケーションと意思統一が絶対不可欠。減少する学生数の中で学生個々のパーソナルな部分も含めた情報共有を行い、学生から悩みや相談といった声を掛けやすい雰囲気作りをすることで退学率の低下を防ぐことが課題。

◆自己評価の点数が高すぎるのではないか。少子化の渦中にある学校経営の厳しさをもっと教職員全体で理解することが必要。それが理解出来ていればもっと数字は低いはず。

◆「2年間で教育し社会へ送り出す」を念頭に学生の特性を引き出し、必ずしも本校の該当分野業界だけに留まらず、その学生の個性に適した業界へと送り出せる、そういった教育機関・学校になって欲しい。

◆学生に向けた専門家によるカウンセリングが必要なのではないか。学校内での

生活やトラブルが原因の学生のメンタル不調については学校の危機管理としても取り組むべき。

## 学校関係者委員会 総括

### 【学校側】

◇今回も沢山の貴重なご意見をいただいた。ご指摘いただいた箇所は早急に検討し、改善を行っていく。数字で図れる部分についてはより良い数字を目指すことはもちろんだが、数字で図れない部分についても教職員の意識を統一し対応していく。